

第八十一回帝國議會 院 郵便年金法中改正法律案外二件委員會會議錄(速記)第三回

昭和十八年二月十六日(火曜日)午前十時十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 八角 三郎君

理事木原 七郎君 理事中川 重春君

理事肥田 琢司君 理事藤生安太郎君

青木 精一君 植松 練磨君

宇田 耕一君 喜多壯一郎君

近藤英次郎君 坂口平兵衛君

角 猪之助君 宗前 清君

東條 貞君 中井川 浩君

林 正男君 松浦周太郎君

新井 堯爾君 眞崎 勝次君

最上 政三君

出席國務大臣左ノ如シ

逕信大臣 寺島 健君

出席政府委員左ノ如シ

逕信次官 手島 榮君

海務院長官 松本 益吉君

海務院部長 新谷寅三郎君

海務院部長 渡邊 浩君

海務院部長 若林 清作君

航空局長官 山田 良秀君

航空局部長 遠藤 毅君

航空局部長 仁村 俊君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

木船保險法案(政府提出、貴族院送付)

○八角委員長 是ヨリ會議ヲ始メマス

最上君

○最上委員 私以下主トシテ木船保險法案ニ對スル質疑ヲ致シタイト思フノデアリマスガ、ソレニ先ダツテ當局ヨリ左ノ三點ヲ御説明願フテ參考トシテ質問致シタイト

思フノデアリマス、其ノ一點ハ我が國海上輸送ノ現狀、二點ハ木造船建造促進策、三點ハ船員ノ需給對策、以上三點ニ付テ當局ノ御説明ヲ求メタイト考ヘマス

○寺島國務大臣 只今ノ最上君ノ御質問ニ對シマシテ御答ヘテ致スニ先シテ一應御諮リ致シタイト思ヒマス、一般公開ノ所デ申上ゲルコトハ極ク抽象的ニナル嫌ヒガアリマス、要スルニ是ハ秘密會ニ於テモ聽カウト云フ御考ヘガアルナラバ、其ノ程度ニ於テ御答ヘテ申上ゲタイト思ヒマスガ、如何デゴザイマスカ

○八角委員長 只今逕信大臣カラノ御言葉ガアリマシタガ、秘密會トシテ逕信大臣ノ御説明ヲ伺ヒタイト思ヒマスガ、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○八角委員長 ソレデハ是ヨリ秘密會ト致シマス、議員以外ノ方ノ御退場ヲ願ヒマス

〔午前十一時十分秘密會ヲ終ル〕

〔午前十時十五分秘密會ニ入ル〕

○八角委員長 ソレデハ再開致シマス、秘密會ニ於テハ逕信大臣ヨリ海上輸送ノ現狀、木造船促進ノ方策、船員需給ノ關係ニ付テ

御説明ガアリマシタ、質疑ヲ續行致シマス——最上君

○最上委員 私ハ運營會ノ問題ニ付テ御伺ヒシタイト思フノデアリマス、運營會ガ他ノ統制會トカ、營團ト其ノ組織ニ於テ異ナツテ居ルコトハ承知シテ居リマスガ、現在ノ狀況カラ見テ、更ニ其ノ機構ヲ擴大強化スル必要ハナイカ、一部ニハ運營會ハ自己資本ナク、借入金ニ依ツテヤツテ居ルト云フ方法ニ付テモ色々論ゼラレテ居ルノデアリマス、隨テ當局ニ於テハ是等ノ點ニ付テ、將來政府資金ヲ注入スル御考ヘガアルカドウカ、或ハ之ニ付テ何等カ基礎ヲ擴大スルヤウナ御考ヘガアリマセウカ、此ノ點ニ付テ伺ヒタイト思ヒマス

○松本政府委員 昨年ノ四月ニ運營會ガ出來マシテカラ今日マデ船舶ノ運營ヲヤツテ居リマスガ、今マデノ實績ニ依リマシテ運營會ヲ更ニ擴大スルト云フ考ヘハ持ツテ居リマセヌ、寧ロ之ヲ壓縮強化シタ方ガ宜イト云フ結論ニ達シテ居リマス、尙ホ運營會ノ運用ニ付キマシテ、運營會ハ御話ニモアリマシタヤウニ、資金ハ持ツテ居リマセヌデ、運營會ハ單ナル運營ノ機關デアリマシテ、政府カラ貸下ゲマシタ船舶ヲ運營スルダケデアリマス、別ニ資産ハ要リマセヌ、運轉資金ノ必要デアリマスガ、運轉資金ハ現在興銀ヲ中心トシマシタ時局融資團、之ヲ通ジテ融資ガ出來ルコトニナツテ居リマスノデ、ソチラノ方モ心配ハアリマセヌ、資金

ノ點カラ見マシテモ之ヲ擴大スルト云フ考ヘハアリマセヌ、唯單ニ寧ロ壓縮強化スル方ガ宜イト云フ結論ニナツテ居リマス

○最上委員 今回政府ニ於テハ運航實務者ニ對シテ全國ヲ五班制ト改メテ、班長ヲ置イテ運航事務ニ當ラセルヤウナ方法ヲ執ラレタノデアリマス、其ノ内容ヲ見マス、從來ノ關係トカ、或ハ資金ノ上カラ見テ、世間デハ是ガ將來資本ノ合同、或ハ企業ノ合同ト云フヤウナ方面ニ向フノデアリマス、サウウカト云フ懸念ガアルノデアリマス、サウ云フ方針デ今回ノ制度ヲ執ラレタノデアリカ、又其ノ中ニ機帆船運航統制會社ガ除外サレテ居リマス、勿論朝鮮或ハ關東州ノ意味ニ於テ除外サレタナラヌモ角トシテ、是等機帆船ニ對シテハ更ニ地區別統制ガ必要デアルト考ヘラレマスガ、機帆船ヲ除外シタ理由ニ付テ簡單ニ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○松本政府委員 運營會ノ下ニアリマス實務者ヲ五班ニ分ケマシタノハ四月以來ノ實績ヲ見マシテ、實務者ノ數ガ相當多イノデ、此ノ運營會ト實務者間ノ通信連絡事務ノ迅速ガドウモ旨ク行カナイ、斯ウ云フコトニナリマシタノデ、丁度隣組ノヤウニ組長ノ下ニ班ヲ作りマシテ、運營會カラ其ノ班ヲ通ジテ總テノ施設ヲヤル、斯ウ云フ方ガ事務ガ迅速確實デアルト云フ點デ此ノ班ヲ作ツタノデアリマス、同時ニ斯ウ云フ風ニ班ヲ作りマシテ、御承知ノヤウニ實務者ハ現在

付託議案

郵便年金法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)(第八一號)
航空法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)(第八二號)
木船保險法案(政府提出、貴族院送付)(第八三號)

大型四十一社、小型十八社アリマスガソレ
メレ組織ニ於キマシテ、或ハ機構ニ於キマ
シテ異ナツテ居ルノデアリマス、又機構ガ
非常ニ立派ニ整備サレテ居ルノモアレバ、
整備サレテ居ナイノモアルト云フヤウナ點
モアリマスノデ、之ヲ班ニ分ケマシテ、各
整備シテ居ル班長ガ之ヲ指導シテ能率良ク
動力シテ行ク、又各主要港灣ノ色々ノ各實
務者ノ支店、其ノ他ノ施設モ長短相補ツテ
之ヲ各班デ一緒ニ使ツテ行ク、ソレデ能率
ヲ擧ゲテ行カウ、斯ウ云フ趣旨デ五ツノ班
ヲ設ケラレタノデアリマシテ、之ヲ基礎ニ
シテ將來五班ニ全部集約スルト云フ考ヘハ
全然ナイノデアリマス、尙ホ此ノ中カラ特
ニ春カラ機帆船聯合會、モウ一ツ大連汽船
ヲ除イテ居リマスガ、是ハ御承知ノヤウニ
普通ノ汽船ト違ヒマシタ特殊性ヲ考ヘマシ
テ、此ノ二ツヲ除イテ獨立シタ實務者トシ
テ扱フコトニナツテ居リマス

○最上委員 合同問題ニ付テハ將來地區別
ノ資本合同、或ハ企業ノ統一ガ行ハレルノ
デアルカドウカ

○松本政府委員 現在ノ實務者ガ相當ニ多
イト云フコトハ十分認メテ居リマス、之ヲ
先程申シマシタヤウニ五班ニ合同スルト云
フコトハ考ヘテ居リマセヌ、唯此處デ斯ウ
云フ點ハ相當ニ考ヘナケレバナラヌト思ヒ
マス、其ノ一ツハ今後計畫造船ガ遂行サレ
マシテ行ク上ニ於テ相當ニ多量ノ船ヲ建造
スルノデアリマス、此ノ多量ノ船ヲ建造
持タサナケレバナラヌ、是ガ爲ニ船主ハ相
當ニ内容ヲ——船主ト申シマスノハ所有者デ
アリマスガ——内容ヲ充實シタ大キイモノ
デナケレバナラヌト云フコトハ、是ハ申スマデ
モナイノデアリマス、ソレトモウ一點ハ現

在船ヲ造リマシテ之ヲ讓渡シマスノニ、或
ル程度國ガ之ヲ補助シテ讓渡シテ居ルノデ
アリマス、又現在船ヲ運航致シテ居リマス
ガ、窮極スル所、戰爭危險ニ依リ損害ハ國
家ガ之ヲ負擔スルコトニナツテ居リマス、
言ヒ換ヘマスレバ國家ノ補助ヲ受ケテ現在
ノ船主運航者ハ運航シテ居ル、斯ウ云フコ
トニナリマスノデ、此ノ點ヲ考ヘマス、是
カラ後、運航スル者ハ、相當程度從來ノ船
ノ所有ヲ、資本ノ對象ト申シマスガ、何カ
自分ノ資本ヲ投資スル一ツノ對象物ト考ヘ
ナイデ、國家ノ要求ニ應ジ、國策ニ應ジ得
ルヤウナ性質ノ所有者デナケレバナラヌト
云フコトモ言ヒ得ルト思フノデス

ソレカラ尙ホモウ一點ハ、運航スル上
ニ於キマシテ、船主所有者自體ガ運航シ
テ行クノガ一番宜イノデアリマス、所
有者ト運航者ト一體デナケレバナラヌ、
是モサウ言ヒ得ルト思フノデス、此ノ二點
ヲ考慮シマシテ、將來ハ或ル程度ニ現在ノ
運航實務者或ハ船主、所有者ト云フモノハ
當然就役サルベキモノト考ヘマスガ、差當
リハ政府ガ強制シテ、此ノ實務者ノ數ヲ減
ラストカ、何トカ云フコトハ、積極的ニハ
働カナイ考ヘデアリマス、各實務者自身デ
自己ノ發動ニ依ツテ合同スルト云フ考ヘガ
アリマスレバ、是ハ政府トシマシテハ出來
ルダケノ援助ヲ與ヘテ其ノ方ニ進メタイ、
斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、
尙ホ世間ノ一説ニハ、運營業會ハ一ツノ
大キナ會社ニシテ、其ノ傘下ニ日本ノ持ツ
テ居ル船全體ヲ集メテ、一會社ニシテ運營
サセテハドウカト云フヤウナ意見ヲ持ツテ
居ル方モアリマスガ、御承知ノヤウニ貨物
船ヲ運航サセマスニハ、其ノ「トシ」數ニ於

キマシテ或ル限度ガアリマス、一會社ニ於
キマシテモ或ル「トシ」數以上ハ一ツノ會社
デハ運航ガ出來マセヌ、ソレデ大體ニ於テ
保有者ノ大キサト云フモノガ決マル譯デア
リマス、又一方今後計畫造船ニ依リマシテ、
日本ガドレ位ノ船ヲ持ツカ、一千万「トン」
或ハ二千万「トン」持ツカ、其ノ量ニ依リマ
シテソレヲ考ヘマス、大體持ツベキ船主
ノ保有量モ凡ソドレ位カ、其ノ數モ凡ソド
レ位カト云フコトハ見當ガ付クト思ヒマス、
之ヲ目標ニシテ將來ハ指導シテ行キタイ、
斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○最上委員 陸上輸送ノ運賃ノ値上ハ、曩
ニ鐵道省ニ於テハ旅客運賃ノ引上、又本議
會ニ於テハ鐵道大臣ハ近ク貨物運賃ノ値上
ヲ聲明シテ居ルノデアリマス、而シテ一般
海上運賃ニ對シテ値上スルヤウナ御方針デ
アリマセウカ、又徵備船ハ別トシテ、使用
料金ノ引上、是ハ色々問題ガ起ツテ居リマ
スガ、如何デス、更ニ機帆船ノ運賃ノ統制
等ガ行ハレテ居ルノデアリマセウカ、之ニ
付テ御伺ヒ致シマス

○松本政府委員 御承知ノヤウニ先般汽船
ノ備船料ニ付キマシテハ公定サレマシテ發
表サレマシタ、併シ此ノ備船料ハ御承知ノ
ヤウニ船費、適正ノ利潤、減價價却ト云フ
モノヲ基礎ニシテ作ラレタモノデアリマシ
テ、今度決メラレタ公定ノ備船料ガ、將來
永久ニ變ラナイト云フ譯デアリマセヌノ
デ、物價其ノ他ノ狀況ニ依リマシテ、或ル
程度差額ガ出來レバ變更サルベキモノデア
リマスガ、當分ハ此ノ備船料デ進ムコトニ
ナルノデアリマス、ソレカラ尙ホ運賃ノ關
係デアリマスガ、運賃ハ御承知ノヤウニ低
物價政策ト密接ナ關聯ガアリマスノデ、重

要ノ物資輸送ヲ致シマスノデ、一部ノ調整
ハ行ヒマスケレドモ、今直グ引上ゲルト云
フヤウナ考ヘハアリマセヌ、各地間ノ非常
ニ不均衡ナ所ハ調整致シマシテ、大體ニ於
テ均シマスケレドモ、之ヲ引上ゲルト云フ
コトハ當分考ヘテ居リマセヌ、隨テ使用料
ハ適正ノ使用料ヲ拂フ、運賃ノ方ハ安イノ
デ、ソコデ運營業會ノ方デハ赤字ガ出來ル譯
デアリマス、此ノ赤字ハ政府デ補償スル、
斯ウ云フコトニシナケレバナラヌト考ヘテ
居リマス、ソレカラ尙ホ機帆船ニ付キマシ
テハ是モ同様ノ狀態デアリマシテ、大體ノ
備船料ハ決ツテ居リマスガ、マダ地區毎、
其ノ他ノ關係デ精密ニハナツテ居リマセヌ、
ヤハリ是モ石炭トカ、米トカ云フ重要物資
ヲ運ブモノニ付キマシテハ最高停止額ガ其
ノ儘ニナツテ居リマスガ、之ヲ上ゲルト云
フコトハ今ノ所工合ガ惡イノデアリマス、
之ニ對シマシテハ先程大臣カラモ御説明ノ
アリマシタヤウナ獎勵金ノ制度ニ依リマシ
テ赤字ヲ補ツテ行ク、其ノ他ノ物資ヲ輸送
シマス地區ノモノニ付キマシテハ、其ノ土
地ニ適當シマスヤウニ調整致シマシテ、或
ル程度賃金ヲ改メテ不均衡ノナイヤウニ目
下致シテ居ル次第デアリマス

○最上委員 私ハ南方地域ニ於ケル海運行
政ノコトニ付テ一ニ點伺ヒタイノデアリマ
ス、ソレハ現在南方占領地域ニ於ケル船舶
ハ、戰前或ハ遁走シ、或ハ撃沈サレタモノ
ガ多イノデアリマス、今日ハ其ノ數ガ寥々
タルモノデ、殆ドナイト思フノデアリマス、
併シナガラ拿捕サレタ船舶モアリ、或ハ引
揚ゲラレタ船舶モアリマセウ、是等船舶ニ
付テハドウ云フ運營方法ガ行ハレニ居ルノ
デアリマセウカ、是ガ一點、モウ一ツハ現

在内地ト占領地區間ニ於ケル船舶ノ運航——
是ハ徵備船以外デアリマスガ、是等ニ付テ
ハドウ云フ運航方法ヲ採ツテ居ルノデアリ
マスカ

○松本府委員 現在ニ於キマシテハ御承
知ノヤウニ軍政地區デアリマシテ、南方地
區ノ「ローカル」ノ方ハ、陸軍地區ハ陸軍、海
軍地區ハ海軍デ指揮命令ヲシテ船ヲ動カシ
テ居ルノデアリマス、ソレデ内地ト南方間
ノ連絡ハ運賃會所ノ有船デアリマス、是
ハ陸軍或ハ海軍ノ配當船ト致シマシテ、ソ
レデ南方ト内地ノ間ヲ往復シテ居リマス、
ソレカラ尙ホ引揚船、其ノ他ノ拿捕船ナ
カノ處分デアリマスガ、是ハ南方地區デ引揚
ガタ船ハ、或ル必要ナモノハ軍ノ方デ其ノ
儘軍用トシテ使ツテ居リマス、其ノ他ノモノ
ハ内地ハ歸ツテ來マシテ、海務院ノ方デ扱
ツテ、之ヲ運賃會ニ貸下ゲテ普通ノ汽船ト
同ジヤウニ扱ツテ運航サセテ居ル譯デアリ
マス

○最上委員 内地南方間ニ於ケル徵備船以
外ノ船舶ノ運賃ハ、現在運賃會デヤツテ居
ルコトト思ハレマスガ、如何デス、又最近
南方各地カラノ報道ニ依ルト、盛ニ木造船
ノ建造ガ行ハレテ居ル「フリッピン」マ
ラ「ジャバ」各地ニ於テ行ハレテ居ルヤウデ
ス、是等ノ船舶ニ對シテモ、南方地域ニ於
テハ既ニ普通船員ニ付テハ養成ヲ行ツテ居
ルヤウデアリマスガ、内地カラモ相當ノ人
員ヲ送ラナケレバナラヌト思ヒマス、隨テ
南方ニ於ケル木造船並ニ船員ノ整備補充ニ
付テハ如何ナル方策ガアリマスカ

○寺島國務大臣 只今最上君ノ御尋ネニナ
リマシタ南方ニ於ケル船舶運航ト云フコトニ
付テ船員ノミナラズ、造船ノコトニモ觸レナ

ケレバナラヌト云フ點御尤モデアリマス、現
今ハ客船ヲ主トスル定期航路ハ、各地ニ指定
シタル所ノ船會社ヲシテ取扱ハシメマシテ、
貨物船ハ舉ゲテ船舶運賃會ガ南方ト日本ト
ノ間ノ交通ヲ擔當致シテ居ルノデアリマス、
尙ホ其ノ外ニ所謂「ローカル」ト云フヤウナ
モノニ付キマシテハ、本邦ノ特殊ノ汽船會社
ガ數箇所ヲ指定サレテ、今軍政下ニ於テ交通
ニ當ツテ居リマス、又御説ノ如ク木造船ヲ
南方デモ相當造リマスノデ、之ニ對シテ木造
船業者ト云ヒマスカ、船大工等モ相當數既
ニ現地ニ參ツテ居リマスガ、今後モ尙ホ若
干ノ増派ヲ必要ト致シマス、今日南方ニ現
存スル船舶ト申シマスレバ、殆ド皆本邦ノ
所有デアリマス、若干ノ小舟ガマダ地方住
民ノ所有トシテ殘ツテ居リマスガ、然ラザ
ルモノハ本邦船デアリ、隨テ之ニ要スル船
員ノ幹部ト云フモノハ、本邦人ノ進出ヲ見
ナケレバナリマセヌ、唯其ノ他ノ一般船員
付キマシテハ出來得ル限り現地人ヲ採用シ
テ行ク、斯クシテソレノ骨幹ヲ支持シ、狀
況ニ應ジテ更ニ海運ノ南方發展ト云フ
爲ニハ大ナル努力ヲ致サテケレバナラヌト
考ヘテ居ル次第デアリマス

○最上委員 畏クモ造船獎勵ノ思召ヲ以テ
建造木材ノ御下賜ガアツタコトハ、只今大
臣ノ祕密會ニ於テ申サレタ通り吾々ハ恐懼
感激ニ堪ヘナイ次第デアリマス、ソレト共
ニ昨今各地方ニ於テハ寺林、屋敷林或ハ並
木等ノ供木ガ盛ニ行ハレテ居リマス、ソ
レ等ノ人々ノ考ヘハ鐵鋼船ニ代ルベキ木造
船建造ノ爲ニ供出スルモノガ多カラウト思
フ、然ルニ現在ノ木材統制會社ノ機構ヲ以
テシマシテハ、折角出シタ材木ガ横流レス
ル虞モアル、是等ニ付テ政府ハ行政特例等

ニ依ツテ、農林省ノ權限ヲ遞信省ニ移管ス
ルナドシテ、監督強化スル考ヘナキカ、或
ハ現在ノ木造船建造業者ニ製材マデモ認メ
ナケレバ完全ニ行ハレナイト思フノデアリ
マスルガ、當局ハ之ニ付テドウ云フ御考ヘ
ヲ持ツテ居ラレマスカ

○松本府委員 木造船建造ノ爲ニ是ガ重
要資材デアル木材ヲ確實ニ入手スルト云フ
コトニ付テハ最モ力ヲ入レナケレバナラヌ
ト思ヒマス、現在木造船用ノ供出木材ト云
フコトガハツキリシテ居リマスモノハ、初
カラサウ云フ名前デ輸送スルヤウニ手續致
シタイト思ヒマス、尙ホ其ノ外ニ是ハ木船
ニ適シテ居ル、或ハ他ノ造船ニヤライデ
木船ニ宜イト云フモノガアリマスレバ、ソ
レガ假ニ軍用デアレバ陸軍、或ハ海軍ヘモ
御願ヒシテ、一部ハ木船ノ方ヘ讓ツテ貰
ツテ、他ノモノデ充テテ貰ヒタイ、斯ウ云フ
風ニ考ヘテ居リマス、隨テ現在モ既ニサウ
云フ風ニ實施中デアリマス、尙ホ是ガ入手
輸送等ニ關シマシテハ實際ニ於テ確實ニ迅
速ニ入手出來ルト云フ方法ヲ執リタイト思
ツテ居リマスガ、マダ具體的ニハ申上ゲ兼
ネル次第デアリマス

○最上委員 木造船建造激増ノ爲ニ、既ニ
各地方ニ於テハ木材ノ暴騰ガ傳ハレテ居
ルヤウデアリマス、其ノ結果トシテ建造費
ノ増加ヲ來スコトハ勿論デアリマス、之ニ
對シ當局ハ監督ハシテ居ラレマセウガ、唯
私共心配スルノハ其ノ反面ニ於テ、所謂工
賃、造船工ノ賃金問題デアル、是ハ賃金統
制令等ニ依ツテ束縛サレテ居リマセウガ、
又之ニ付テ獎勵金ナドヲ出シテ造船建造ニ
精進出來ル方策ヲ執ラレルノデアリマセウ
カ、御聽キシタイ、同時ニ昨今各方面ニ於

テ修理工場ガ甚ダ修理ガ遅イト云フ説モ聞
クノデアリマス、之ニ付テハ或ル地區別ニ
修理工場デモ造ツテヤレバ非常ニ便利デア
ラウト思フノデアリマス、之ニ付テ如何ナル
方策ヲ御持チデアリマスカ

○寺島國務大臣 木造船ノ勞務者ノ賃金ハ
現今ニ於キマシテモ地區ニ依リテ非常ナ相
違ガアリ、倍以上モ違ツテ居ル所ガアリマ
ス、是等ハ其ノ地區ノ狀況ヲ全然無視シ
テ、一律ニ賃金ヲ設定スル譯ニハ行カスト
思ヒマス、是ハ大體甲造船所ニ於ケル造船
勞務者ニ對スル賃金統制令ノ特例ヲ準用致シ
マシテ、所謂出來高拂ヲ加味シタル適正ナ
ル賃金ノ支拂ガ出來ルヤウニ致シテ居リマ
ス、尙ホ先程御尋ネノ木材横流レノ問題ニ
付テ、一寸速記ヲ止メテ戴キタイ

(速記中止)
○最上委員 祕密會ニ於テ遞信大臣ハ現ニ
行ヒツツアル港灣作業會社ノ設立モ着々實
現ヲ見テ居リ、荷役問題モ萬全ヲ期シテ安
心出來ル程度デアルト云フ御話デアリマシ
タガ、荷役問題ニ付テハ先般來色々世上ノ
問題ニナツテ居ル譯デアリマスノデ、此ノ
際ハツキリ作業會社ハ現在下ノ位ノ程度マ
デ進ンデ居ルカ、又中央ニ於テ是ガ統制會
等ガ出來ルヤウデアルガ、其ノ統制會ハド
ウ云フモノデアルカ、同時ニ曩ニ通過シタ
豫算ニ對シテ港灣荷役勞務者ニ對スル優遇
施設ガ相當計上サレテ居リマシタ、是等ノ
優遇施設費ヲ以テドウ云フ待遇方法ヲ行フ
ノデアリマセウカ、ハツキリ世間ノ誤解ナキ
ヤウニ大臣カラ御答ヘテ願ヒタイト思ヒマ
ス

○寺島國務大臣 港灣ノ荷役ノ増進ヲ圖リ
マス爲ニ一定數ノ勞務者ヲ確保シナケレバ

ナラス、其ノ上ニ又本邦人以外ノ人ヲモ茲ニ増加ヲ致シテ、其ノ確保ヲ圖ツテ參リマ

スルガ、近時戰爭ノ遂行上ニ於キマシテハ海運ハ一定ノ數量ツツ一定ノ期間ニ運ブ

ノデハナクシテ、繼マツテ入ツテ來ル、繼マツテ入ツテ來ルカラ、ソレヲ成ベク早ク

ヤラウト云フニハ相當數ノ人ガ要ル、數日經テバソレ程船ガ入ラナイト云フ時ニハ、

手間ガ空イデ來ル、斯ウ云フノデ離散分集スルヤウニ程度ノ儘デ置イテ置イテハイケ

ナイ、ドウシテモ港灣作業會社ヲシテ一定數ヲ確保シナケレバナラス、ソレニハ勞務

ノ餘ツタ時ニハ他ノ方面ニモ活用スルコトモ考ヘマスルガ、悉ク左様ナ譯ニハ參リマ

セヌノデ、政府ト致シマシテハ是等ノ仕事ニ當ラセル人ノ賃金ノ半分位ヲ政府ガ補助

ヲスル、是ト共ニ作業會社ハ今マデ勞務者ニ對シテ福利施設ト云フモノガ殆ド行ハレ

テナカツタ、狭イ部屋ニ五人モ、六人モ居ルト云フ狀況ニ付キマシテハ、是等ノ福利施設

モ十分考ヘテ行カナケレバナラス、又荷役能率ヲ擧ゲタ者ニハ獎勵金ヲ出ス、勞務者ノ確保ノ爲ニスル補助——豫期以上ノ、

デアリマス

○最上委員 更ニ最近世間デハ倭及ビ支那ニ於ケル我克ノ利用ニ付テ色々論ゼラレテ

居リマスガ、當局ニ於テハ是等ニ付テ何カ對策ヲ御持チデアリマセウカ、支那方面ニ

於ケル我克ノ活用ハ現在ノ船舶不足ノ際ニ有效ニ利用出來ルト思ヒマスガ、御伺ヒシ

タイ

○寺島國務大臣 今御尋ネノ支那ノ我克ノ利用ト云フコトハ政府ニ於テモ考ヘテ居リ

マス、又現地ニ於テモ着々準備ヲ致シテ居ルノデアリマス、是ハ内地ト外地トノ連絡

ノミナラズ、支那自體ノ方ノ物資ノ輸送ト云フコトニモ、南方ト中支、北支トノ間ノ

交通ニモ活用シナケレバナラスト存ジテ居ルノデアリマス、速記ヲ止メテ……

○八角委員長 速記中止

〔速記中止〕

○最上委員 沈沒船ノ引揚問題デアリマス

ガ、是ハ豫算ヲ見ルト僅カ七十六萬圓ノ獎勵資金デアリマス、今日内外地ニハ相當ノ

沈沒船ガアラウト思ヒマス、是等ノ引揚ニ付テ當局ハ專念セラレテ居ルヤウデアリマ

スガ、曩ニ通過シタ豫算デ足リノデアリマスガ、勿論占領地域ハ遞信省ハ關係シテ居

ラナイデアラウト思ヒマスガ、是等ニ付テ御分リノ點ヲ御聽カセ願ヒタイト思ヒマス

○松本政府委員 今ノ御質問ノ通り、此ノ金額ハ占領地區ニハ全然關係シテ居リマセ

ヌ、占領地區ハ海軍ノ關係デアリマス、茲ニ計上シテアリマスノハ内地ダケノモノデ

アリマシテ、是ハ獎勵費ニナツテ居リマスガ、主トシテ「スクラップ」ニ對スル獎勵費

デアリマス、「スクラップ」「トン」ニ對シテ幾ラト云フコトカラ勘定シテ出シテアリ

マス、昨年度ノ實績カラ見マシテ、本年度モ大體此ノ程度デ間ニ合フト云フヤウニ考

ヘテ居リマス

○最上委員 船員ノ優遇問題ニ付テ二、三

御尋ネシテ見タイト思ヒマス、最近船員ノ優遇並ニ待遇ニ付テハ、當局ニ於テ改善ヲ

講ゼラレテ居ルコトハ私モ承知シテ居ルノデアリマスガ、特ニ先頃閣議ニ於テ船員優

遇ノ要綱ガ決定セラレマシタ、ソレニ依ルト徵備船ハ勿論デアリマスガ、徵備船以外

ノ船員ニ對シテモ今後行賞、或ハ公葬ノ恩典ガアルヤウニ聞イテ居リマスガ、之ニ付

テ内容ガ分リマセヌカラ、ハツキリシタコトヲ御聽カセ願ヒタイ

○寺島國務大臣 過日決定致シマシタ船員優遇問題ノ第一ハ、今御話ノアリマシタ通

リ軍徵備船ハ今マデモ軍屬トナツテ居リマシタガ、軍徵備船以外ノ船デモ、軍ノ指

示ヲ受ケテ運航スルモノ、例ヘバ船舶運營會ノ如キモノノ船ハ保護ノ關係上、特ニ海

軍ノ指示ヲ受ケル、或ハ南方ノ軍政地區ニ於テ陸軍ノ指示ヲ受ケルト云フコトガ將來

モアリ得ルモノト思フノデアリマス、此ノ軍ノ指示ヲ受ケテ運航スルモノニ付テハ、

ハ公葬トシテ執リ行ヒタイ、是ハ主トシテ

海務局所在地ニ於テ取繼メテヤリマスシ、

場合ニ依リマシテハ中央ニ於テ合同ノ葬儀

等ヲ行ヒタイ、斯ウ云フノデアリマス、モ

ウニツハ唯官ノ施設ガ斯ウスルノダト云フ

ダケダナク、船員ハ本當ニ今何處ニ行ツテ

居ルカサヘ、軍隊ノ出征ト同ジヤウニ分ラ

ナイ、遭難致シマシテモ、是ガ的確ニ直グ

其ノ狀況ガ分ル譯デハナイ、大部分ノ人

ハ遭難ノ收容スラ出來ナイト思ヒマス、斯

様ナ狀況デアリマシテ、一般國民ト致シマシテ、齊シク國民ハ一億一心デ職域奉公ヲ

依ツテ、船員ニ對スル色々ノ日用物資ノ配給等ヲ行ヒ、優遇方法ヲ講ジテ居ルトハ承知シテ居リマスガ、更ニ高級船員養成ニ對シテ伺ヒタイ、先程聽キ洩シマシタガ、普通船員ヲ短期ニ教育ヲシテ、之ヲ高等船員ニスルト云フ何カ施設デモシマシタカ、又機帆船ノ海員免狀ノ行使範圍ヲ擴大スルト云フ御考ヘガアリマセウカ、此ノ二點ニ付テ御伺ヒ致シマス

○寺島國務大臣 今仰セノヤウナ點ハ總テ實行シテ居リマス、短期養成モ新タニ出來タモノト、從來モ數回ヤウテ居リマスガ、御説ノヤウナ短期ノ養成ニ依ツテノ習熟ヲヤウテ居リマス、此ノ點ハ政府委員カラ豫算委員會デモツト詳シク御答ヘシタ所デアリマス

○八角委員長 ソレデハ植松君

○植松委員 先程大臣ノ極メテ御親切ナル御説明ニ依リマシテ、吾々ノ聽カントスル所ハ殆ド盡シテ居ルノデアリマスルガ、唯港灣荷役ノ増強ノ爲ニ障礙トナルベキ所ノ諸點ヲ除イテ、且又必ズ各機關ノ連絡ヲ密ニシテ、大變能率ヲ擧ゲタト云フコトヲ聽イテ意ヲ強ウスルノデアリマス、更ニ私ハモウ一步進シテ港灣行政統一化ト云フコトニ付テ大臣ノ御考ヘハドウデアアルカ、現場ヘ行ツテ見マス、大體九ツノ絲ニ依ツテ何レノ港灣モ支配サレテ居ル、吾々ガ特ニ危惧致シマスルコトハ、海上ニ於ケル港灣ノ區域ガ水上警察ガ之ヲ管理致シテ居ルコトデアリマス、海務局トアルケレドモ、極メテ權能ガ少イノデアアル、或ハ鐵道ト港灣トノ關係、些々タル引込線等ノ問題ノ爲ニ建設ガ遅レテ、今日荷揚力ヲ非常ニ阻碍シテ居ルト云フヤウナ狀況デ、是ハドウシテ

モ海運能力ヲ増強スル爲ニ、大東亞戰爭ヲ完遂スル爲ニ港灣行政ヲ統一スル、更ニ戰後ニ於テモ大東亞共榮圈、大陸、南洋ノ資源ヲ日本ニ採リ入レデ、之ヲ消化スルト云フ見地カラ申シマシテモ、重要ナル港灣ハドウシテモ港灣行政ヲ一元ニシテ、サウシテ其ノ能率ヲ發揮スルト云フコトハ、是ハ戰時タケデハナイ、永遠ノ問題デアルト考ヘルノデアリマス、此ノ點ヲ一ツ御考ヘル所ヲ承リタイト思ヒマス

第二ニハ、今回ノ木造船ノ安全性ニ付テデアリマス、此ノ間モ其ノ方面ノ業者ガ吾等ノ所ニ參リマシテ、今回出來ル計畫木造船ハ甚ダ安全性ニ乏シイ、是ガ乘員トナル者モ容易ニ行カレマイト云フヤウナコトヲ話シタノデアリマス、併シ先程ノ逡信大臣ノ御説ニ依ルト、高等商船學校ノ生徒、其ノ他ノ船員ニ付テモ其ノ募集ニ付テハ遺憾ナイ、豫期以上デアルト云フコトヲ伺ヒマシテ、洵ニ吾々ハ喜ンデ居ルノデアリマス、古イ話ヲ申シマス、マゼランガ四百年前ニ世界一周ヲ行ツテ太平洋ニ初メテ白人ガ進出シタ時代ニ、マゼランハ五艘ノ艦隊ヲ率キテ來タ、其ノ一番大キイノハ百六十「トン」デアツタト聞イテ居リマス、又支倉常長ガ「ローマ」ニ使ヒシテ、太平洋ヲ横斷シタノハ、十五間ノ長サノ船デアルト申シマスカラ、大體今ノ百「トン」見當ノ木造船デハナカツタカト考ヘマス、技術ノ非常ニ幼稚ナ時代、航海圖ノ極メテ不確カナ時代ニ、サウ云フ帆船ヲ以テ大洋ヲ制シテ居ツタノデアリマス、吾々ト致シテモ九十「トン」ノ水雷艇ノ艇長トシテ日本内地ハ固ヨリ朝鮮、臺灣、支那沿岸各地ヲ廻ツテ居ルノデアリマシテ、木ノ船デモ建造サヘ旨ク

バヤレ、現在ノ日本ノ技術デ造リ、現在ノ日本ノ技術デ操縦スルナラバ、何等ノ不安ハナイト考ヘルノデアリマス、然ルニ世間デハ木造船ニ對シテ甚ダ不評判デ、曲リ木ヲ使ハナイカラトカ、或ハ直線式ノ船ニスルトカ云フコトデ、ソレニ對シテ不安ヲ持ツテ居ルヤウナ者モ無キニシモアラズダ、サウ云フ話ヲ私ノ所ヘ來テ話シテ行ツタ者ガアリマス、ソコデ私ハ考ヘルノデアリマスルガ、是ノ安全性ニ付テ、海國日本ノ男子ハ、此ノ位ノ安全性ノ船ダツタナラバ、殊ニ決マツタ航路ヲ往復スルガ如キハ安全デアリ、船員ノ養成モ、船體ノ建造モ極メテ容易デアルト吾々ハ考ヘルノデアリマス、此ノ點ニ付テ大臣カラ安全性ハ確カデアルト云フ力強い御言葉ヲ御伺ヒシタイト思フノデアリマス

第三ニハ先程近藤委員カラ青少年ノ航空知識ニ對シテ、國民學校ニハ飛行機ノ雛型、或ハ中等學校以上ニハ「グライダー」ソレゾレ航空知識ノ普及ノ爲ニ努メテ居ルト云フコトヲ聞イテ居ルノデアリマスガ、日本ノ全國國民ニ海國日本トシテ海洋教育ノ必要ナコトハ、申スマデモナイコトト考ヘマス、海洋道場等モ各府縣ニ其ノ目的ノ爲ニ着々建設サレテ居ルト承ツテ居リマスガ、其ノ現況ヲ御差支ナイ限りニ於テ承リタイト思ヒマス

○寺島國務大臣 港灣行政ノ一元化ノ問題ハ、過日ノ豫算委員會ニ於テモ御質問ニ御答ヘ致シタ次第デアリマス、是ハ從來カラ研究サレテ居ル問題デアリマスガ、何分他省トノ間ノ關係ガ非常ニ多イノデ、是等ラドノ程度マデドウシテヤルカト云フコトヲ目下研究中デアリマスルガ、要スルニ港灣

行政ノ統一ノ目的トスル所ハ、海上輸送力ヲ増強スルコトガ第一ノ目的デアラウト思ヒマス、就キマシテ實質上ニ之ニ影響ヲ及ボス所ノ各官省ノ主管ヲ異ニスル爲ニ手續ガ非常ニ煩瑣ニナルト云フヤウナ點ハ着々ト改善サレテ居リマシテ、許可ヲ得テカラ始メルト云フヤウナコト、大藏省ノ方ヘ行カナケレバナラヌト云フヤウナコトハ、電話デ宜シイ、出港ノ時ハ海務局ダケニ届ケレバ、大藏省ノ方ニハ届ケナクテモ宜イ、或ハ税關長ガ是ヲスルト云フヤウナコトハヤライデモ宜シイ、サウ云フ廢止スル等ノ手段ガ幾多講ゼラレテ居リマス、又倉庫ノ關係、碇泊場ノ狀況ガドウデアルトカ云フコトモ海務局ニ一元化サレテ居リマス、尙又今御話ノアリマシタヤウナ九ツノ省ニモ連繫シテ居ルト云フノハ形デアリマシテ、實際海上輸送ノ方デ陸上輸送トノ關聯アル倉庫ノ問題、斯ウ云フヤウナコトニ付キマシテハ、只今ハ協議會ヲ以テ各關聯者ノ密接ナル連絡ヲ執リ、特ニ鐵道トノ連絡ハ、最近ニ於テ殆ド各港々ノ特殊性ニ應ジテ考慮ヲ拂ツテヤウテ居ルノデアリマス、然ラバ是デ宜イカ、全然一本筋デ行クカト云フコトニナリマス、御説ノ通りサウハ行カナイ所モアリマスルガ、是等ハ今直チニドノ程度マデ一元化ノニヤルノダト云フ程ニハ、マダ決定シテ居リマセス、政府トシテ今考慮研究中デアリマス、一例ヲ申シマス、茲ニ重要物資ガアリマス、九州デ出來マスル物ヲ阪神ヘモ、名古屋ヘモ、東東ヘモ持ツテ來テ居リマシタガ、海上輸送ノ關係カラ、場合ニ依リマシテハ大部分ガ阪神ニ揚ガル、豫ネテ來ル貨物ニ付テハ、陸運、海運ノ連絡モ遂ガ、倉庫モ取レ、或ハ上屋モ荷揚場モアリマスルガ、

大キナモノ、重量物が不意ニ來ルトナルト、
「クレージン」ノ設備ノアルト云フ所ガ悉クデ
ハナイ、又集積場モソレニ伴ハナイノデ、
餘程早目ニ行カケレバナラヌデアリマ
スルガ、是ハ一元化シテ居ツタラ、ソレマ
デニ行ケルカト云フ問題ニナリマス、所
要場所ガ東京トカ、名古屋、陸運デ之ヲ捌
イテ吳レヌト後ガ來マセヌ、然ラバ鐵道マ
デ一緒ニシテシマフカ、港灣作業ノ關係ダ
ケデ總テ行カト云フコトハ、大キナ問題
デス、サウ云フ關係ガアリマスノデ、現今
ハ形ヨリモ實際主義ニ於テ之ヲ解決シテ行
キタイ、本日モ此處ニ海務院ノ次長ガ來テ
居リマセヌノハ、斯様ナ意味デ現地ニ行ッ
テ實際問題ヲ着々ト處理シテ居ル次第デア
リマシテ、斯ウ云フ風ニシテ現下ノ實績ヲ
調節シ、強化致シマシテ、其ノ上ニ於テ如
何ニ官制上ノ處置ヲ講ジテ行カ、必要ニ
應ジテ所謂行政職權等ヲモ適時準用スル考
ヘデ研究中デアリマス、ソレカラ機帆船ニ
乗組ム人ガ不安ヲ感ジハシナイカ、ドウモ
急ゲ、ト言ツテヤルノデ、木造船ハ多少
簡易化シテ來ル、斯ウ云フヤウナ爲ニ不安
ヲ生ジハシナイカト云フ聲ヲ私モ耳ニシマ
スガ、今御尋ネテヤウナ點ニ付キマシテ
ハ、私ハ其ノ不安ハナイト申上ゲタイ、ト
云フノハ、決シテ是ハボロ船ヲ造ツテ居ル
ノデハアリマセヌ、御説ノ通り、今日ノヤ
ウニ造船術モ進歩シテ居ナイ、三百數十年
前ニ伊達正宗ガ「ローマ」ニ支倉六右衛門ヲ
使ヒニ出シマシタ場合ニハ、長サガ三十八
「メートル」幅十「メートル」、之ヲ今ノ機帆
船ニ直セバ約二百「トン」餘リノモノダラウ
ト思ヒマス、又、是ハ明治ノ初メニナリマス
ガ、勝海舟ガ太平洋ヲ横斷シテ「アメリカ」ニ

行ツタノ威臨丸ハ是ヨリ長サハ少シ長イガ、
幅ハ九「メートル」デ短イ、補助機關トシテ
百馬力ノ蒸氣「エンジン」ヲ持ツテ居リマシ
タ、斯様ナ風ニシテ是等ノ二百「トン」バカ
リノ總「トン」數ノモノガ活躍致シタノデア
リマス、今日ノ船員ニ於テマダ海上ノ知識
理解ガ足ラヌ人モ中ニハアルガ、不安ヲ來
スヤウナ木造船ハ造ラナイノデアリマス、
唯急造デアリマスカラ、何處ノ荒浪ニ持ツ
テ行ツテモ、何年デモ大丈夫ダト云フヤウ
ナコトニ重キヲ置タカ、今日ノ大東亞戰ヲ
勝抜タ爲ノ輸送維持ニ重キヲ置イテ一艘デ
モ、「トン」デモ多ク造ルカ、何レニスル
カト云フコトハ、此ノ戰爭完遂ノ爲ニ今日
ニ於テ大東亞圈内ニ活躍シテ安全ナル船
多少壽命ハ短クナツテモ、此ノ航海期間中
ハ安全デアルト云フコトデ、多量生産ニ重
キヲ置イテ居ルノデアリマス、隨テ船員ニ
船ノ脆弱性カラ來ル不安ハ毛頭ナイヤウニ
思ツテ居リマス

第三ノ地方ニ於ケル海洋道場ニ付テノ現
況ハ政府委員カラ説明致シマス

○松本政府委員 地方ノ青少年ノ海洋訓練
ノ點ニ付テハ、政府ガ指導致シマシテ現在
ニ於テハ海事振興會ト、海事關係ノ諸團體
ガ聯合シテ海洋聯盟ト云フモノガ出來テ居
リマスガ、是ガ主體トナツテ青少年ノ海洋
訓練ヲ實施シテ居ルノデアリマス、從來ハ
是ガ海ノ記念日トカ、或ル時ヲ限ツテ訓練
ヲヤツテ居リマシタガ、昨年來一年中ノヲ
實施スルコトニ決メマシテ、連續的ニ此ノ
訓練ヲヤツテ居ル譯デアリマス、尙ホ青年
船員ニ對シテハ、船員青年學校ヲ各主要港
ニ作りマシテ、御承知ノヤウニ船員ハ行動
ガ頻繁デアリマシテ、一地カラ一地ニ移ル

ト云フヤウナ關係、神戸デモ教育ヲ受ケ、
或ハ横濱ニ來レバ横濱デ教育ヲ受ケルト云
フヤウニ、一地カラ一地ノ學校ニモ出ラレ
ルヤウナ方法ヲ講ジ、是ハ主トシテ海運報
國團ガ中核ニナツテ、此ノ教育ヲヤツテ居
ル次第デアリマス、尙ホ此ノ教育ニ關聯シ
テ海洋聯盟、海事振興會等ガ働キマシテ、
各地方ニハ青少年訓練用ノ海洋道場ヲ作ル
コトニナツテ居リマス、之ニ對シテハ各府
縣カラ非常ナ御同情ヲ得マシテ寄附金、其
ノ他モ順調ニ集マツテ參リマシタ、中ニハ、
數字ハハツキリ記憶致シマセヌガ、殆ド
出來上ル所ガ數箇所、目下準備中ノ所ガ教
館所アルヤウナ狀況デアリマスガ、此ノ完
成ガ少シ遅レマシタノハ主トシテ資材ノ關
係デ、是ガ早ク出來ヌノハ残念ニ思ツテ居
リマスガ、著々ト順調ニ資材モ出來ルダケ
幹旋致シテ居リマスノデ、不目出來上ツテ
之ニ依ツテ青少年ノ海洋訓練ヲ實施スルコ
トガ出來ルダラウト思ヒマス、尙ホ本年ハ
金額ニ於キマシテハ僅カデアリマスガ、政
府カラモ海洋道場ニ對シマシテ補助金ヲ支
給スルヤウニ豫算ヲ要求シテ居ルヤウナ現
狀デアリマス

○植松委員 只今木造船建造船ノ極メテ安全
デアルト云フコトヲ伺ヒマシテ、大變喜々
モ喜ビマス尙ホ青少年ノ海洋訓練ニ對シテ
ハ一層御當局ノ御努力ヲ御願ヒ致シマシテ
私ノ質問ハ終リマス

○八角委員長 本日ハ此ノ程度ニ致シマス、
次會ハ明後日午後一時カラ開タコトニ致シ
マス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後零時十二分散會